



日米の平和を説いた 外交官

— “郷里は長岡”の駐米大使 —

さいとう 齋藤 いらし 博

明治19(1886)年～昭和14(1939)年

持ち前の社交性で世界中に人脉を広げ、「アメリカ人よりアメリカを知る」と言われた外交官。

日米開戦を回避するため、平和外交に力を注いだ人。
長岡藩士であった祖父と毎年、東京から帰郷。親戚や近所の友人と交遊し、「郷里は長岡」の心が育まれました。
抜群の英語力で外交官として欧米に赴任し、世界恐慌で揺れる昭和5年にはロンドン海軍軍縮会議に出席。会議には、長岡中学校(現・長岡高等学校)野球部のコーチを一緒にしていた山本五十六も参加していました。
満州事変後、世界から孤立の道を歩む日本。49歳の若さで特命全権アメリカ大使になった齋藤は、戦争を避けるべく、山本と共に世界平和を説きました。
やがて心労と病で倒れ、ワシントンで病死。遺骨は旧友の山本が横浜港で出迎えました。

米百俵プレイスから 始まる新たな未来

大手通坂之上町地区再開発事業 (仮称)

広い視野がこれからの時代の力に

長岡は、青少年の国際交流が盛んで、これまで約30年にわたって2,000人以上が海外を訪問しています。
私は、18歳で初めて海外に行きました。日本と違う文化や自然、全てが刺激的で今も胸に刻まれています。世界の多様な価値観に触れることの大切さを実感したんです。
長岡の学生には、若いうちからさまざまな国の文化に触れてほしいです。違いや共通点に気づき、その理由を追究することで、国際感覚が養わ



公益財団法人
長岡市国際交流協会
理事長

原 和彦 さん

平成20年に理事長に就任。青少年を中心とした海外の姉妹都市との交流に取り組む。スーパーマーケットの原信などを経営するアクシアル リテイリング(株)代表取締役社長。

れ、視野が広がります。多角的に物事を捉え、発想力を育むことが、これからの時代を切り開く力になります。
米百俵プレイスには、地球広場のほか、産業支援機関や4大学1高専の拠点も入りま。それらの機能をつなぐことによって、さらなる可能性を生み、世界で活躍できる人が育つ環境になります。
人材育成には多くの時間がかかります。「米百俵の精神」のように、先を見据えたビジョンを持つて臨んでいきます。

連載

その七 国際 人材

かつて先人は未来を見据え、長岡のまちの礎を築きました。そして今も同じ志を持って活躍する人がいます。次代を担う若者たちにその想いを伝え、未来へとつなぐ「米百俵プレイス(仮称)」への期待の声と魅力を紹介いたします。
関中心市街地整備室 ☎39・2807

米プレ
こんなトコ

国際人材が育つ
多文化共生の拠点に



外国人市民が活躍するための生活支援や国際理解の拠点「地球広場」を令和7年度に移転。留学生や海外との交流を通じ、次代を担う若者が多様な文化や価値観に触れる機会を提供し、世界的な視野を持つ人材の育成を目指します。



▲多様な文化に触れられる国際交流センター「地球広場」